



本日の
プログラム

インターアクト活動報告 北海高校インターアクトクラブ

米山記念奨学事業の危機管理と諸問題

地区米山記念奨学・学友委員長 入井浩樹 氏

米山記念奨学・学友委員会委員長を仰せつかっておりま
ず、滝川RC所属の入井でございます。本日は、歴史ある札幌
東RC様にお招きを頂き、誠にありがとうございます。本日、
米山記念奨学事業と米山奨学生に対する危機管理のご説明
をさせて頂きたいと思っております。また、米山奨学事業につ
いては、米山豆辞典に細かく、分かりやすく記載されてお
りますのでお手すきの時間にご一読頂ければと思っております。

もう、皆様はご存じかと思いますが、ロータリー米山記
念奨学事業の始まりを振り返ってみたいと思っております。日本
のロータリーの父と呼ばれる米山梅吉氏が亡くなったあ
と、その偉業を記念し、後世に残るような有益な事業を立
ち上げたい、という思いから1952年、東京RCが始めたもの
です。当初は、アジアから優秀な学生を招いて勉学を支援
するもので、「米山基金」という名前でした。そこには、二度
と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和
に寄与したい、という当時のロータリアンたちの強い願望
がありました。それこそがロータリアンの夢だったと思いま
す。その後、財団法人化を経て、1999年から、全ての国と
地域の留学生が採用対象になりました。

ロータリー米山記念奨学事業は、始まりから一貫して、
日本で学ぶ優秀な外国人留学生を対象としています。これ
まで、2023学年度採用者を含めて、131の国と地域の留
学生が米山奨学生になりました。米山奨学事業は、日本の
ロータリー独自の活動として作られ、発展してきました。この
ため、国際ロータリーとは一線を画す状況が続いていた
そうです。そうした関係が次第に変化してきたのは2000年
に入ってからだそうです。2004年11月のRI理事会では、「奨
学金の授与を通し、世界理解と平和に貢献されている財団
法人ロータリー米山記念奨学会を称賛する」とされ、ロー
タリー米山記念奨学会が「多地区合同活動」の手続きを取
ることにより、ロータリーの名称やロータリーのロゴマー
クを今後も引き続き使用することを認める、ということが決
議されたそうです。

米山奨学事業の最大の特長は、「世話クラブとカウンセ
ラー制度」です。毎月1回以上、奨学生が例会に出席し、地
区行事も含めたロータリー活動に参加し、奨学金を受け取
るだけではない「顔の見える交流」を行うためにカウンセ
ラー様は日本でのお父さん、お母さんのような役割が重要にな
ってきます。米山記念奨学事業の使命は、「将来、日本と世

界とを結ぶ『懸け橋』となって国際社会で活躍し、ロー
タリー運動の良き理解者となる人材を育成すること」です。

次に、当地区の2023学年度米山奨学生数をご紹介します。
2022学年度(石丸年度)からの継続奨学生4名、2023学
年度(松浦年度)の新規奨学生13名、海外応募学生1名で
合計18名です。国別では、サウジアラビア1名、ドイツ
1名、マレーシア2名、ベトナム2名、韓国3名、中国6
名、台湾2名、スリランカ1名です。また、奨学生の決
定から選考、そして世話クラブの決定までのスケジュール
はご覧の通りとなっています。

ロータリーは国や民族、文化、職業の異なる人々を結
び合い、国際理解、親善、平和を推進することを目的と
しています。米山奨学金は「平和日本」を世界に伝え、戦
後の国際親善に寄与したい、という願いから、日本の
ロータリアンによって設立されました。どこの国から
の留学生であれ、日本で学びたいという夢を持って来日
しています。国籍で判断せず、また、国家間の問題を
個人に置き換えることなく、一人でも多く日本の理解
者、日本の友人を作ることが米山奨学事業の使命であ
ると思っております。ご清聴ありがとうございました。



■本日のロータリーソング

我等の生業

2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

「世界に希望を生み出そう」

国際ロータリー会長：ゴードンR.マッキナリー

